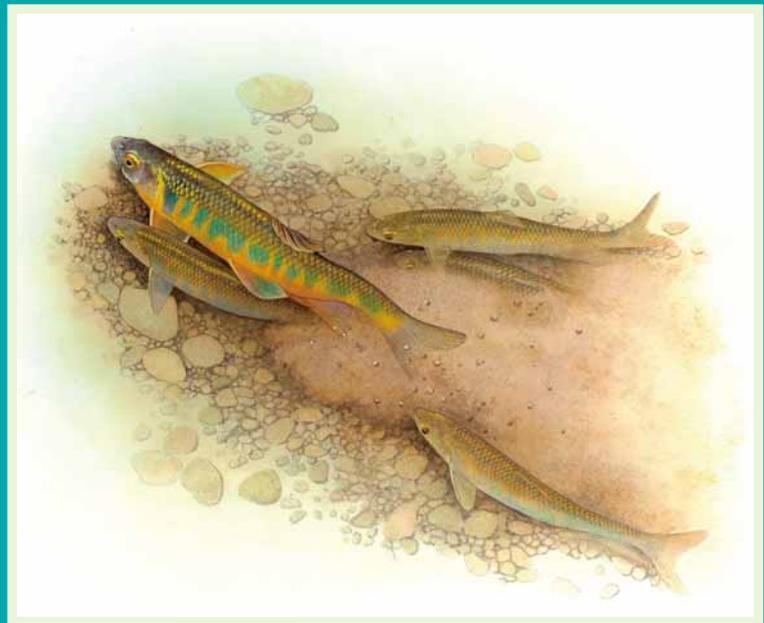


写真 行啓の際、当館の鉄砲堰イベントを
ご覧になった皇太子殿下



オイカワ産卵図／狼 林（日本理科美術協会会員・ジオアートワークスメンバー）画

かわはく No.49

CONTENTS

企画展案内「荒川流域のいきもの絵画展」	2
5月企画展「もしもに備える」	3
情報募集のお知らせ「みんなでつくる埼玉県の爬虫類マップ」	3
交流員の現場から	4
電子顕微鏡の世界(12)～電子顕微鏡操作研修会～	5
当館の「荒川ゼミナール」に参加してみませんか？	6
コラム「かわはく周辺のへび」	7
皇太子殿下をお迎えして	7



企画展示案内

「荒川流域のいきもの絵画展」

開催期間：2014年3月15日(土)
～5月6日(火)

埼玉県立 川の博物館 第二展示室
点数：60点あまり

埼玉県立川の博物館では、本館第2展示室を利用してさまざまな企画展示を催しています。

3月15日から5月6日までの期間、日本理科美術協会会員でネイチャーアンドワイルドライフアートを手掛けている狼林氏の絵画を荒川流域を題材とした剥製と一緒に展示します。

荒川流域で見られる花や魚、昆虫、野鳥や動物など自然生物の写実絵画展です。科学的な角度から観察され描かれた精密な絵画はまるで写真のようですが、いきものの生息している空間・背景そのものが凝縮されていて、動いていた時間までもが細かに描かれています。絵画を通じて荒川流域を流れる時間と生き物の美しさ、自然の美しさを絵画を通して感じ取っていただける展示です。また、絵に描かれている生き物の剥製も展示します。

狼林氏プロフィール

1980年ごろからアーティストとして活動、日本理科美術協会会員として、ネイチャーアンドワイルドライフアート（自然生物写実画）を手がけている。

作品は魚類、鳥類、鯨や狼などの哺乳類、昆虫など多岐にわたっている。

また講演会や絵画教室のワークショップにも積極的に取り組んでいる。

ワークショップも開催します。

手ぶらで参加OKです。ムサシトミヨの特徴について学びながら、水溶性の絵の具で描くことに挑戦します。描いた絵は記念に持ち帰り可能で、親子で参加できます。是非ご参加ください。

ワークショップ「ムサシトミヨを描こう」

日時：3月30日(日)

4月13日(日)

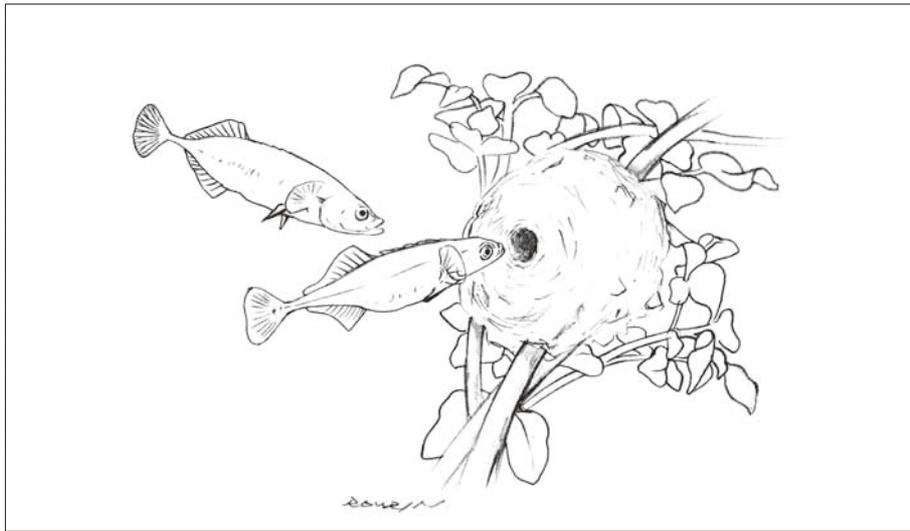
時間：11：00～ 14：00～

場所：講座室

定員：各回20名 参加費100円(45分程度の講座)

要事前予約：開催日の1か月前より受付いたします。(詳しくはお問い合わせください。)

(石井克彦 研究交流部)



ワークショップ「ムサシトミヨを描こう」で使用する下絵

狼 林 (日本理科美術協会会員・ジオアートワークスメンバー) 画



展示予告

5月企画展「もしもに備える」

展示期間：平成26年5月24日(土)～6月22日(日)

突然ですが、クイズです。「日本が世界全体の発生件数の約18%」、さてこれは何の数字でしょうか？答えは、マグニチュード6以上の地震が起きた回数です。2003～2012（平成15～24）年の統計によるもので、日本近海で発生した地震もこの中に含まれています。

日本の各地では、地震以外にも、豪雨、洪水、竜巻、豪雪、崖崩れ、火山の噴火などによる様々な自然災害に毎年のように見舞われています。

では、もしも今、あなたの身近なところで自然災害が起きたとしたら…その備えは万全ですか？

いつ起こるかわからない自然災害に対して、私たちは日頃から常に備えておくことが大切です。非常食や防災グッズの備えはもちろん大切ですが、自分がどのような場所に住んでいるのかということ「知る」備えも大切です。なぜなら、住んでいる場所や、地域によって、起こりうる災害の種類やそのリスクが異なるためです。

埼玉県は昔から水害の多い地域ですが、その中でも特に被害の大きかった水害として、1910（明治43）年の豪雨による洪水や、終戦直後の1947（昭和22）年に発生した、カスリーン台風による洪水が挙げられます。このカスリーン台風による洪水は、現在、埼玉県内でつくられている洪水のハザードマップ（災害予測地図）で考慮されているシナリオの、一つとなっています。

また、埼玉県北部でつくられている地震のハ

ザードマップで、考慮されているシナリオの一つとなっているのが、1931（昭和6）年に起きた西埼玉地震です。この地震は、埼玉県北部の直下で発生した内陸地震で、活断層である深谷断層を含む関東平野北西縁断層帯が活動したものと考えられています。

ところで、ハザードマップは、ある一つのシナリオに基づいた予測の地図でしかありません。自然はシナリオ通りには行きませんから、実際には、ハザードマップ通りの災害にはならないでしょう。その上で、ハザードマップを過信しすぎず、自分で考えて災害に対応できるように、日ごろから訓練をしておくことも、一つの「備え」となるでしょう。

この展示では、埼玉県で過去に起きた風水害や地震災害などの事例を写真やデータで紹介します。また、水害に対する備えとして2006（平成18）年に完成した首都圏外郭放水路の紹介も行います。また、自分がどのような場所に住んでいるのかを知り、備えるための情報として、荒川流域の地盤の標高が細かくわかる地図（デジタル標高地形図）の展示や、荒川流域の明治前期につくられた地図（迅速測図）と現在の空中写真の比較展示も行います。



カスリーン台風による荒川堤防決壊の碑

もしもの時、この展示をご覧になった方一人一人の被害が少しでも小さくなり、全体として大きな減災になるお手伝いができればと思います。（研究交流部 杉内由佳）

情報募集のおしらせ

ヘビ・カメを見たらかわはくに教えて！

「みんなでつくる埼玉県の爬虫類マップ」を作成します！

かわはくでは夏期企画展として「ふしぎ・かっこいい 埼玉と日本の爬虫類(仮)」を開催します。この展示にあわせて「みんなでつくる埼玉県の爬虫類マップ」を作成する予定です。

そこでみなさまの学校やお家の近く（埼玉県内）でみつけたヘビ、カナヘビ、トカゲ、ヤモリ、カメなど爬虫類の情報を募集します。過去の情報でもかまいません。（担当：研究交流部 藤田宏之）

○募集期間：5月1日～9月7日

○目撃したら…

- ・見つけた日の日付（過去の情報も可）
- ・場所（できるだけ具体的に！）
- ・写真もしくは生き物の種類

をメール:kawahakutokage@gmail.com、来館、郵便で教えて下さい。問い合わせはかわはくまで。優秀写真は表彰しますので是非ご応募下さい！



交流員の現場から

「お兄さんこれあげる」と5歳くらいの男の子が自分で、折った折り紙をプレゼントしてくれました。川博では、老若男女すべての方が実際に自分の手を使って楽しむことが出来る「ワークショップ」という部屋があります。そのワークショップで一生懸命に折った折り紙を「お手伝いのお礼だよ」という言葉を添えていただきました。その男の子に折り紙と元気を頂いたことがとても強く印象に残っています。(金井俊貴)

「小学校の遠足以来だ!」と、それは楽しそうに水桶を担いだり、鉄砲堰をご覧になったりしている20歳代男性2名様がいらっしゃいました。聞けば、そのうちのお一人様が結婚して地元を離れるため、久しぶりに訪れた、とのこと。当時と同じ物を大人の目線で見られて楽しかった、とおっしゃいました。何度来ても新鮮に感じ、お客様の思い出に残るかわはくでいられるよう、日々努力して行きたいと感じました。(堀内慶子)

印象に残っているのは、わくわくランドでの出来事です。平日でお客様も少なく、1組の親子と2時間近く一緒に遊んでいました。そのお子さんが車で帰るとき、私がまだわくわくランドで仕事をしていると、車の窓を開けて「新井さん、また来るね。」と大きな声で、何度も言ってくれました。照れくささもありましたが、楽しんで帰って頂けたことに自分自身の満足感も得られ、よりお客様と密に接するようになりました。(新井 浩)

私は博物館で仕事をするようになって色々なことを経験したり学んだりしました。お客様を一番に考えて、「どうしたら喜んでくれるか、楽しんで、もらえるか」を常に考えるようになり、これからも帰るときに笑顔で「楽しかったよ」と言ってもらえるよう頑張りたいと思います。(高橋由香里)

夏の終わり、リバーホールに大きな影が飛び込んできました。大きな羽音を立てホールをぐるぐる回るので、学芸員と交流員が協力しての大捕物、捕まえたのは掌よりも大きなオニヤンマでした。様子を見ていたお客様も一緒になって小さな講習会が始まりました。頻繁ではありませんが、かわはくでは珍しくない光景です。色々な体験ができるかわはくへ是非遊びに来て下さい。(上戸千明)

かわはくでは館内各所を交流員が案内します。いつも笑顔でお客様に接する交流員の現場の声をお聞き下さい。

私は川の博物館の展望台が大好きです。もちろん、展示室や溪流観察窓、荒川大模型、大水車なども素敵ですが、是非一度展望台に登ってみてください。高い位置から博物館の素敵な場所を一望できます。また、空気の澄んだ日には赤城山を始めとする山々、冬には白鳥も見られます。貴方の目にはどんな景色が映るでしょうか。(仙田詩織)

川の博物館に来て学んだことは、お客様に対して「おもてなし」の精神を大事にするということです。お客様に展示物についてわからないことを聞かれたとき、説明してもよく伝わらなかったことがあって最初は戸惑いましたが、お客様に「ありがとう」と言って頂くと、とてもやりがいがあり奥が深い仕事だと感じます。(長谷川清敬)

私はこの仕事を始めて5年になるのですが、お客様からの温かい言葉には励まされ、やる気と元気をもらっています。小さいお子様からの「ありがとう」や、年配の方の「丁寧な解説ありがとう」といった感謝の気持ちや言葉を頂き、励みになることが多々あります。こういった出会いや経験を大切に、お客様に気持ち良く帰って頂けるようこれからも日々努めたいと思います。(篠田裕紀)

2年間、交流員として働く中で、幅広い年齢のお客様とお話をする機会がありました。興味深いお話を聞かせて頂けることも多く、同時に自分の長所を再発見できたり、改善すべき点を見つけたり、次につながる重要な経験になっています。私もお客様にとって新しい発見のお手伝いができればと思っています。(高地竜之助)

クリスマスの日、朝一番に地元のお客様が歩いて来られました。その時に自分で、作ったという竹笛を持って来られました。うまく音が出ないんだよ、とおっしゃるとおり最初は音が出ませんが、何回も吹いているうちにきれいに音が出るようになりました。クリスマスに音楽をプレゼントしてもらった気分でした。(山本加奈)

冬には雪上の動物の足跡、夏には蝉の声や子供たちのはしゃぐ声。いつも遊べるワークショップや楽しみながら学ぶ空間。交流員は子供たち・来館者の絵顔を楽しみにいつもお待ちしております。季節を変えて是非ご来館ください。



電子顕微鏡の世界 (12) ～電子顕微鏡操作研修会～

埼玉県立川の博物館では、走査型電子顕微鏡（略称SEM）を所有しています。当館ではSEMを積極的に活用していただくことを目的に、県内の先生方を対象にした電子顕微鏡操作研修会を毎年開催しています。年間3回の実施に今年も9名の応募がありました。各回とも4名程度の少人数で行っていますので、ゆっくりと電子顕微鏡について学んでいただくことができました。先生方はとても熱心で、電子顕微鏡を利用したすばらしい写真が撮影されました。SEMを利用することで、

普段なかなか見ることができないミクロの世界を覗くことができます。また、電子顕微鏡で撮影した写真は、教材として活用することもできます。

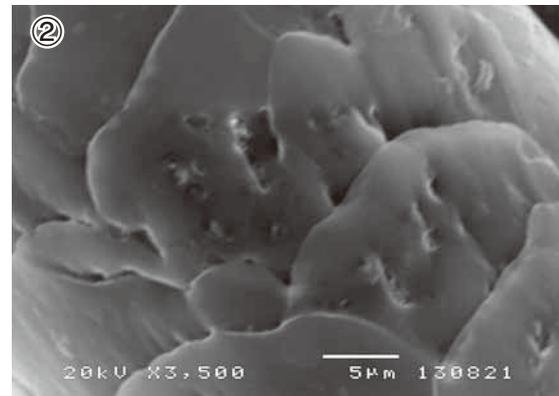
川の博物館のホームページにも、当館で撮影された電子顕微鏡写真を資料として掲載しています。

平成26年度も研修会の実施を予定しておりますので興味のある方は川の博物館までお問い合わせください。

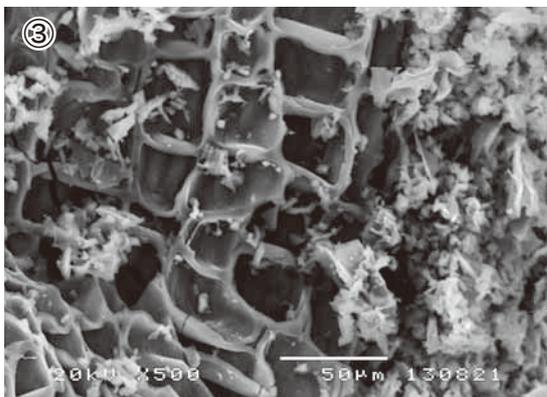
(研究交流部 石井克彦)



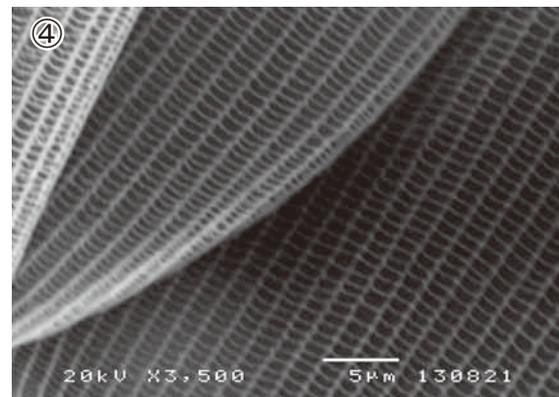
①「アリの頭部」行田市立長野中学校 岡田賢太郎



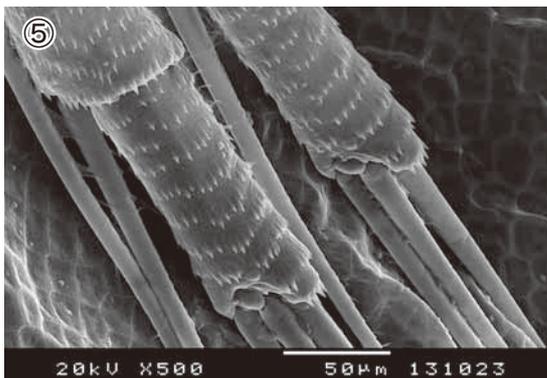
②「睫毛」埼玉県立鴻巣高等学校 金澤伸二



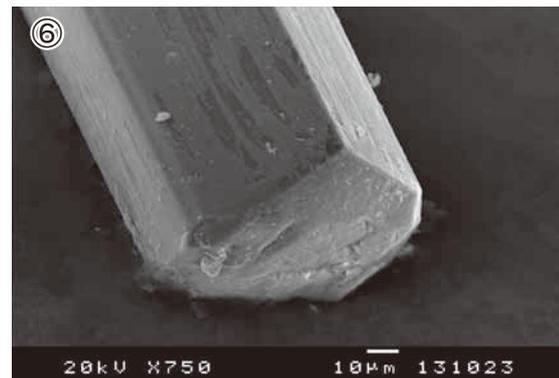
③「竹炭」志木市立志木第四小学校 小林陽介



④「チョウの鱗粉」さいたま市立与野西中学校 渡辺順子



⑤「ミジンコ」埼玉県立川越女子高等学校 矢野光子



⑥「電気石」埼玉県立日高等学校 山根幹夫



当館の「荒川ゼミナール」に参加してみませんか？

当館では、ここ数年「荒川ゼミナール」(以下、「荒ゼミ」というイベントを開催してまいりました。

「荒ゼミ」っていったいどんなイベントなのか？その言葉だけを聞くと、「ゼミナール」という単語が使われていることから、難しいイメージを持たれるかもしれませんが、決して難しいテーマを扱ったイベントというわけではありません。一応、イベントの対象としては一般の方々をターゲットにはしていますが、中には子供達が参加しても十分に楽しんでいただけるイベントも含まれています。

それでは、イベント内容の具体的な紹介をしていきたいと思えます。荒ゼミはまず大きく分けると2つのカテゴリーに分かれます。1つは、毎年テーマを設定し(歴史なら歴史、動植物なら動植物など)、そのテーマに沿った内容で講師の先生にお話ししていただく講演会です。

平成25年度は「人々の暮らしと地形」というテーマを設定し、改めて「河川(荒川や利根川など)が人々の暮らしにもたらしてきた影響(恩恵や災害も含めて)や先人の知恵とその工夫」を、全3回講座で受講者の皆さんと一緒に考えました。

実はこの講演会、普通の講演会とはやや趣向を変えている点もあり、3回のうち1回は部屋を飛び出して、屋外で講演会を開催しました(写真①)。このタイプの講演会は「青空教室」の名称でこれまでも実施しています。講師の先生に室内で写真等を見せていただきながらお話を伺うだけでも大変勉強になりますが、「百聞は一見にしかず」という諺も示す通り、「実際に自分の目でモノを見てもらいながら、受講者の皆さんにお話を聞いていただく」というコンセプトの下、外を歩きながら、ポイント、ポイントで講師の先生にお話をさせていただくため、話の内容をより理解しやすいスタイルになっています。

平成26年度も、荒ゼミの特徴の1つである、屋外スタイルの講演会、「青空教室」の開催を複数回予定しています。

次に、荒ゼミを構成しているもう一方の大きなカテゴリーの紹介をしたいと思います。講演会と双璧をなしているのは、「ウォーキングイベント」(写真②)です。

このウォーキングイベント、ただただ長い距離

を歩くわけではありません。歩く距離は毎回約10km程度。歩く場所も、時には山地、時には平野部、時には都心部、またある時は海岸の近く、と様々です。

荒ゼミのウォーキングイベントで重要視している点は、歩く距離や場所ではなく、むしろ「荒川の歴史を語るうえで外せない場所」といったように、荒川にゆかりのあるテーマであったり、河川地形や河川環境を学ぶことができる場所であったりと、前述の青空教室同様、「参加者はウォーキングをしながら屋外で様々な学習ができる」という点です。

また引率には、人文系・自然系の両分野の学芸員が同行し、道中に両ジャンルの解説ができるように準備しています。このスタイルでウォーキングイベントをはじめて数年経ちますが、私達企画者側も大いに勉強させてもらっており、より質の高いイベントを目指して努力しております。

平成26年度は、これまで実施してきたウォーキングイベントの内容を踏襲しつつ、「長距離」と「荒川が織り成す景観の変化を実感してもらう」という要素を追加した、「荒川をとことん歩く」というイベントを実施すべく目下準備中です。

荒ゼミは初めての参加でも、年に1回の参加でも、子供と一緒に参加でも、そして全部の回にご参加いただいても楽しんでもらえるように、スタッフ一同努めています。興味を持たれた方は、ぜひ一度当館荒川ゼミナールにご参加いただければと思います。(研究交流部 羽田武朗)



写真① 部屋を飛び出して屋外で講演会



写真② 参加者の皆様から好評を得ているウォーキングイベント



③④⑤ かわはく周辺のヘビ

2014年7月12日～9月7日に開催を予定している企画展「ふしぎ・カッコいい 埼玉と日本の爬虫類(仮)」では、埼玉県内で見られる爬虫類と日本国内で見られる珍しい爬虫類を中心に紹介する予定です。特にヘビは、気持ち悪い・怖いなどと忌み嫌われていますが、比較的身近に見られる生きものでもあり、信仰対象にもなるなどヒトと近い存在といえます。

かわはくの周辺では埼玉県で確認されている8種のヘビが全て確認されています。8種それぞれ好む環境や餌の違いがあるので、かわはく周辺は多様な環境が残されているといえるでしょう。全種の紹介は企画展を待つとして、ここでは代表的なアオダイショウを紹介します。

アオダイショウは全長最大2mにもなる大型で、かわはくでは樹上で日光浴している姿もみられるなど、ときどき観察される種です。ネズミなど小



樹上で日光浴をしているアオダイショウ

型の哺乳類や鳥類を餌にすることから、家屋など建物にも棲みつき、日本ではもっとも人に近い存在のヘビといえるでしょう。大きくなる種で見かけると驚くこともありますが、おとなしく無毒です。

これから暖かくなると、ときどきヘビを見かけることと思います。ヘビは本来ほとんどがおとなしく、いたずらをしない限り人に危害を加えることはほとんどありません。そっと見守ってあげてほしいところです。(研究交流部 藤田宏之)

皇太子殿下をお迎えして

皇太子殿下の行啓が決まった時、はたと皇太子殿下にお会いしていないことに気が付きました。生物学者の昭和天皇、魚類学者の今の天皇、家禽を研究しておられる秋篠宮殿下などにはお会いしていましたが、皇太子殿下はお会いしていませんでした。殿下は、中世のテムズ川の舟運の研究をなされているとお聞きしており、その関係で、川の博物館に興味を持たれ、行啓の運びになったのだと思います。

行啓や行幸など、ロイヤルファミリーとの関係では日頃聞かない言葉やしぐさが求められます。ちなみに天皇がいらっしゃるときは行幸、今回は皇太子殿下でしたので、行啓です。日本で私がロイヤルファミリーにお会いしたときは、待っているところに来ていただくために特別な所作は要求されませんでした。ブータンのロイヤルファミリーに拝謁する時は、カムネという白い布を肩にかけて両手を頭の上まで上げて静かに前のほうに下ろして挨拶をします。前日から洋服のチェックとあいさつリハーサルを行いました。残念ながらネパール政変のため、急きょ取りやめになり、農林大臣だけへのあいさつとなりましたが、リハーサル通りにした思い出があります。

皇太子殿下をお迎えするにあたり、殿下の人となりや研究の分野について調べました。イギリスへの留学時の生活は、「テムズとともに—英国の二年間」に詳しく書かれており、テムズ川の舟運について資料調査をなされたこと、また日本での生活から解放され自由を

謳歌されたことがわかりました。さらに調べると、江戸の水運に関して国際フォーラムで発表なされるほど造詣が深いこともわかりました。通り一遍の説明では失礼にあたる、また水運に関してこれだけ関心を持たれるので川の博物館を選んで頂けたのだと光栄に思い、心して解説文を再度見直しました。

11月17日の当日、県の関係者からは、時間厳守で説明をするように要請がありましたが、殿下の希望に沿うように説明しようと思っていました。鉄砲堰の実演で水がドーンといきよく流れてきたときは、殿下は、迫力がありますねとおっしゃっていました。解説者の羽田も丁寧な説明をしていたので、いろいろな興味を持たれたようでした。特に文献上はご存知の水塚の実物が展示してあることに興味を持たれたようでした。またスロープ展でブータン関係の展示をしていることにも興味を示されたので、私がブータンに招聘され国立生物多様性センターに関わったことと、その関係で秋篠宮殿下にはよくお会いしていたことなどで話がはずみ、和やかにお送りすることができて、川博としても私としてもよい思い出になりました。

(館長 平山良治)



4月

2/4/火~6/29/日

スロープ展「砂漠の中の水」

3/15/土~5/6/火・祝

企画展「荒川流域のいきもの絵画展」

6/日 **かわはくであそぼう・まなぼう「桜の押し花づくり」**

時間：13：30～15：30

費用：無料

定員：なし

内容：桜の押し花をつくります。

13/日 **企画展関連ワークショップ「ムサシヨミヨを描こう！」**

時間：①11：00～ ②14：00～（各回45分程度）

費用：100円（材料費）

定員：20名（小学生以上対象）☎

19/土 **かわはく体験教室「コウモリ観察会」**

時間：16：30～18：30

費用：100円（保険料）

定員：25名（申込順）☎

内容：コウモリの観察をします。バットデテクターを使って普段聞くことのできないコウモリの超音波を聞きとります。

5月

5/24/土~6/22/日

5月企画展「もしもに備える」

3/土・祝~6/火・祝

かわはくGWまつり

時間：10：00～16：00

4/日 **かわはくであそぼう・まなぼう「地質の日記念・化石発掘体験！」**

時間：13：30～15：30

費用：無料

定員：なし（材料がなくなり次第終了）

内容：本物の貝の化石を取り出す体験をします。見つけたら標本として持ち帰ることができます。

10/土 **かわはく体験教室「落ち葉をめぐってみよう！土のふしぎ教室」**

時間：13：30～15：30

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）☎

内容：土の中の生きものの観察や簡単な実験を通して土の不思議をさぐります。

11/日 **たんけん！荒川教室「荒川の生き物観察教室」**

時間：10：00～12：00

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）☎

内容：かわせみ河原で、川の中にすむ生き物の様子を観察します。

18/日 **荒川ゼミナールⅡいろんな荒川を見に行こう「荒川をとことん歩く1」**

時間：10：00～16：00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）☎

集合：秩父鉄道浦山口駅を予定。

内容：荒川沿いをとことん歩いて荒川の流れとその周辺の景色の移り変わりを楽しみます。今回はその第一弾です。

25/日 **荒川ゼミナールⅠ人々のくらしと地形「深谷断層をまたいで歩く～活断層がつくる地形めぐり～」(企画展関連イベント)**

時間：9：30～16：00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）☎

集合：JR岡部駅

講師：水野清秀氏（(独)産業技術総合研究所）

内容：埼玉県最大の活断層である深谷断層の活動によって形成された崖や、そこに見られる地層、湧水、遺跡などを見て歩きます。

6月

1/日

たんけん！荒川教室「箱めがねで川底たんけん」

時間：10：00～12：00

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）☎

内容：箱めがねを使って、川の中の様子を観察します。

8/日 **かわはくであそぼう・まなぼう「環境の日記念・水質調べ」**

時間：①10：30～12：00 ②13：30～15：00

費用：無料

定員：なし（材料がなくなり次第終了）

内容：環境の日にちなみ、水質検査キットで水質調査を体験します。

8/日 **荒川ゼミナールⅠ人々のくらしと地形「見て発見！歩いて体感！地形のふしぎ」** 埼玉県立文書館 共催イベント

時間：10：00～16：00（予定）

費用：100円（保険料）

定員：20名（申込順）☎

集合：JR浦和駅西口

内容：埼玉県立文書館で古地図などの収蔵資料を見学します。その後、大宮台地や荒川低地の地形を歩いて体感します。

14/土 **かわはく体験教室「ミクロの世界をのぞいてみよう」**

時間：13：30～15：30

費用：100円（材料費）

定員：15名（申込順）☎

内容：主に実体顕微鏡を使って、色々なものを拡大して見ます。見えなかったものが見えるオモシロさを体験します。

15/日 **企画展関連講演会「竜巻や集中豪雨はどうして発生するのか」**

時間：13：30～15：00

定員：80名（申込順）☎

費用：無料

講師：吉崎正憲氏（立正大学 教授）

内容：昨年、越谷市や熊谷市で竜巻が発生し大きな被害がでました。また集中豪雨も日本各地で頻りに発生します。それらがなぜ起こるのかを考えます。

7月

7/12/土~9/7/日

企画展「ふしぎ・かっこいい！埼玉と日本の爬虫類（仮）」

スロープ展「は虫類展サテライト展示 かわいい？ヘビ・カメ大集合」

6/日 **かわはくであそぼう・まなぼう「川の日記念・七夕かざりづくり」**

時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00

費用：無料

定員：なし

内容：川の日を記念して七夕かざりをつくり、荒川大模型173に飾ります

13/日 **かわはく体験教室「竹の水鉄砲づくり」**

時間：13：30～15：30

費用：200円（材料費）

定員：25名（申込順）☎

内容：竹をつかった水鉄砲をつくり、的当てを楽しみます。

20/日 **たんけん！荒川教室「荒川ずぶぬれウォーク①」**

時間：10：00～14：00

費用：500円（保険料）

定員：15名（申込順）☎

内容：荒川本流をかわせみ河原から玉淀河原まで遡ります。

27/日 **かわはく夏まつり**

時間：10：00～16：00

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の4日前までです。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/



2014年3月15日発行

